

2015.4.22 すばる小委員会 議事録

日時：2015年4月22日（水）午前11時より午後2時10分

場所：国立天文台三鷹すばる棟2階会議室（ハワイ観測所、東北大学、東京大学、JAXA、
京都大学とTV会議接続）

出席者：青木和光、大朝由美子、柏川伸成、高田昌広、成田憲保、宮田隆志、山下卓也
（以上三鷹）、

有本信雄、岩田生、大橋永芳（以上ハワイ観測所からTV会議接続）

村山卓（東北大学からTV会議接続）

嶋作一大（東京大学からTV会議接続）

片坐宏一（JAXAからTV会議接続）

岩室史英（京都大学からTV会議接続）

欠席者：田中雅臣、吉田道利

書記：吉田千枝

==== 今回の A/I =====

- ・インテンシブWGのTAC内人選を進め、WGの活動を開始する。
- ・すばるが大学教育に貢献していることを具体的に示す資料のたたき台案を青木委員中心に作成する。他の委員もそこに盛り込むべき内容についてアイデア・資料を提供する。
- ・すばる関連の学位取得者リストに漏れがないか各委員がチェックする。
- ・観測所からTACに「サイエンスのパフォーマンスを上げるため、最低必要夜数を割り込んだ採択は慎重にお願いします、そのことで旅費の削減にもつなげたい」という文書を送付する。
- ・SAC委員長からFastsound PIの戸谷氏に7/8(水)のSAC(於東北大)への出席の可否を問い合わせる。SEEDS PIの田村氏に5/27(水)のSEEDSレビューの時間を連絡する。

[報告事項]

1 所長報告

< TMT の反対運動について >

ハワイでの反対運動のため、TMT建設工事が三週間止まっている。マウナケアの全観測所長が対応を協議しているが、山頂に上がる職員が毎回ハレポハクでTMT関係者かどうか反

対派に誰何される事態だ。デイクルーが罵声を浴びせられたこともあったが、警察に届けるのは控えている。山頂に上がる公用車にはフロントガラスにビデオカメラを設置する準備を進めている。また観測所として安全ポリシーを定め、所員には「止められたら、引き返せ。何か言われても言い返さないように」と伝えている。例年行っている AstroDay (マウナケアの天文台が合同で行うオープンハウスの行事で、多数の来場者がある) が 5/2 に予定されているが、中止もありうる。この反対運動はアンチ天文学ではなく、ハワイの文化をどう守るか? という運動なので、対応を検討中だ。

Q : すばる観測者には注意をしているのか?

所長 : 必ず所員が同行するので。これまでトラブルがあったことはない。

大橋副所長 : デイクルーが山頂に上がれず、装置交換ができなくなるおそれがある。

所長 : 観測スケジュールを変更する場合もあるかもしれない。

Q : Keck や Gemini の対応も同様なのか?

所長 : 事を荒立てない、というのは皆同じだと思う。(他の天文台はリモート観測が多く) 観測者が山頂に行くすばるが一番目立つ。

C : ハワイ大学が TMT サポートのための署名運動をしているようだ。

所長 : 今は反対派が燃え上がっているので、時機を見て動く必要がある。最終的には世界中から TMT サポートの声が上がるだろうし、反対運動への地元からの反発も出てくるだろう。反対派の議論は「アメリカにハワイが乗っ取られた」というところまで行ってしまうので、対応が難しい。

2 新委員の大朝由美子氏(埼玉大学)の紹介

SAC 委員長 : 深川委員の後任として今回から参加していただくので、宜しくお願いします。

3 Subaru-Keck WS 準備状況

所長 :

Subaru-Keck WS は 9/1-9/2 の二日間、仙台国際センター (後日注 : 会場は東北大学に変更) で 30 人規模で開催する。日本側の出席者 15 名ほどが決まった。プログラムはこれから検討するが、前半はサイエンスで、最後の半日がビジネスセッションになる予定だ。サイエンスセッションを東北大の院生に公開したい。

2 回目の合同 WS はカリフォルニアで開催することになると思う。

SAC 委員長 : 1/16 の Keck 戦略会議を見ても、自分が Keck を使ってやりたいサイエンス

の話になるのではないか？

所長：今回は初回の合同 WS なので、Keck 側が我々の値踏みにくる。出席者には自分がこれまでに行った最高のサイエンスをプレゼンしてほしいと伝えてある。

SAC 委員長：では次回の SAC でさらに詳細を伺いたい。

4 2016 年の韓国 PI 提案の取り扱いについて

SAC 委員長：

韓国は 2015 年に Gemini 時間を 10 夜買い、2016 年は Gemini の正式なパートナーになると聞いていたので、その場合は時間交換枠を通してすばるに応募することになる、と伝えた。だが、韓国側からの回答は「まだ議論中なので Gemini パートナーになるかどうかはわからない。すばるとの連携を強化したいので、(Gemini パートナーになる場合でも) 特例的に扱ってもらえないか」というものだった。Gemini パートナーにならないのであれば、これまで通りすばるの提案を受け付けることになる。

所長：Gemini 所長は 2016 年に韓国がパートナーになると言っていた。意思の疎通ができていないのかもしれない。

大橋副所長：韓国はすばるとの連携も視野に入れているようだ。

5 インテンシブ WG について

SAC 委員長：

(インテンシブ枠について再検討する)インテンシブ WG は、SAC からは成田委員、高田委員、嶋作委員に依頼したが、観測所と TAC からの人選がまだできていない。観測所からは今西科学運用部門長とあともう一人決めていただきたい。

所長：高遠氏にお願いする。

TAC 委員長：TAC からの人選は取り急ぎ進める。

検討の結果、高田委員にインテンシブ WG のまとめ役を依頼した。

6 大学からのすばる支援活動について

青木委員：

前回の SAC 後にすぐ案を作ったが、まだ関係者間で検討はしていない。作成するリーフレットの内容としては、すばるの運用の紹介、大学の研究者がすばるをどれくらい利用しているか、すばるを使って研究している具体例、体験企画などの教育活動、大学とすばる合

同のプレスリリースの紹介等を考えていた。ただ、この資料をどう使うのかがはっきりしない。

所長：すばるの予算が大幅に減らされ、最低必要額を割り込んでいる。大学の研究力強化にすばるがあまり役立っていないと政府筋に思われているようなので、概算要求に備えようというのがもともとの動機だった。きれいなリーフレットを作るよりもまずそちらに特化したほうがよいかもしれない。

青木委員：大学の学長に見せる場合は見栄えも大事なので、二段階に進めてもよい。

所長：まず必要な材料を集めてまとめるところから始めたい。

大橋副所長：ALMA や TMT 関係も含めると分野間連携がアピールできて説得力が増すのではないか？

所長：最初から他所に呼びかけると所帯が大きくなりすぎてうまく行かないので、まずはすばるでやったほうがよい、というのが前回の議論だった。

SAC 委員長：概算要求用に資料を作る場合、いつまでに必要か？

青木委員：6月に説明に行くので、5月までに作る必要がある。

SAC 委員長：では次回の SAC で議論できるよう、たたき台の作成をお願いしたい。各大学の SAC 委員にも協力していただきたい。

所長：30m望遠鏡ができれば、8m望遠鏡はいらないのではないかと必ず言われる。

「すばるでターゲットを探し、日本独自のサーベイを TMT で行う」と何度も回答しているのだが、それでも何度も聞かれるのは答えに納得していないからだと思う。

SAC 委員長：TMT 側もよく同じことを聞かれて、同様に答えているが、具体的なサイエンスを挙げて説明しても果たして理解してもらえるのか？

大橋副所長：惑星候補を 30 個見つけるとか、ダークエナジーのサンプルを一万個見つけるとか示したこともあったが。

所長：TMT 側からすばるが必要だという観点が必要だろう。

SAC 委員長：TMT 側でも「すばるがあるから日本の TMT は活動できる」と繰り返しているが。

C：具体的なイメージがわからないのだろう。

C：大々的なキャンペーンをやってもらってはどうか？

C：すばるでここまで研究したが、さらにこれをやるには TMT がないとできない、という例があるとよい。

C：それはすばるでなく TMT のサポートになるのではないか？

C：すばるがないと TMT で何を観測するかがわからない。

SAC 委員長：TMT 側では、「すばるが成果を挙げられたのは、中小口径望遠鏡で見つけたものをすばるで見たからで、今度は TMT で同じことをやる」と説明をしてきたのだが。

C：わかりやすい例があるとよいが。

C：外国の例を出してはどうか？世界の流れはこうなっていて、すばると TMT でそれを先駆けてやっている、という説明はどうか？WFIRST は 1000 億円級のプロジェクトで、それにも劣らないことがすばると TMT でやれる、というのは説得力があるのではないか？

SAC 委員長：この資料をまとめる際にそれらも加味できるとよい。各大学からインプットしてほしい情報があるか？

青木委員：今後具体的なインプットを大学関係者に依頼することになると思う。

SAC 委員長：皆さんからこれを加えてはどうかという提案をお願いします。

所長：大学共同利用機関は第三期中期目標では、1) 大型装置等を用いて国際協力・国際共同研究など国立大学全体を俯瞰する先導的なモデルとなる研究システムの創出に資する取組など、研究体制の整備を先導し、世界最高水準の研究力を強化する。2) 特定分野における大学共同利用機関を中核とする大学間連携やネットワーク形成による新たな学問分野の創生に資する。3) 強み・特色ある分野の教育研究を基礎として大学全体を支える研究環境基盤を構築・強化する、これらのいずれかを重点目標とすることが要求されている。国立天文台は 1) を選ぶ方向に行くと考えている。国立大学もそれぞれの大学強化重点目標を設定するように要求されているので、そのなかで天文学の分野での各大学での国立天文台の位置づけをどのようにしてゆくか、お考えを伺いたい。

SAC 委員長：次回たたき台案が出てくるが、皆さんも天文台をどうサポートできるか考えておいてほしい。

7 FMOS 移設案の進捗について

岩田副所長：前回の議論を Silverman 氏に伝えた。「わかりました、動いてみます」とのことだった。

所長：Silverman 氏と所長の連名で CFHT 所長に連絡し、先方の返事待ちの状態だ(交渉先は CFHT のみとした)。先方のコミュニティに諮ってくれるとよいが。

岩田副所長：FMOS の技術的なことを聞かれたら、できるだけ答えたい。

8 owncloud について

SAC 委員長：岩田副所長の尽力で、かねて懸案だった SAC 用のクラウドの準備ができたので、今後資料の置き場所として利用していただきたい。また、改善点の提案があればお願いします。

9 すばる関連学位取得者情報について

SAC 委員長：すばる関連で学位を取得した人は今年は少なくとも 4 人だけ把握できている。
SAC 委員にリストを回覧するので、博士・修士ともに再確認をお願いする。

10 すばるプロポーザルの abstract の公開について

SAC 委員長：S12A-S13A の採択者 103 人に abstract 公開の可否を伺ったところ、47 人から回答があり、公開可は 43 人だった。対応はどうか？

岩田副所長：このままりマインドはせず、同意が得られた分のみ公開すればよいと思う。

C：皆が公開すると思ったので公開に同意した人がいるのではないか？

C：観測所の方針として公開するなら全て公開でいいのではないか？

岩田副所長：今後はそうだが、過去の分については公開を前提として書かれていないので、やはり PI の同意が必要だ。追加で公開可の連絡をしてきた人の分は対応したい。

Q：どうやって公開するのか？

岩田副所長：すばるのウェブに採択課題リストを載せているので、そこに abstract を付加する予定だ。ADS でも公開する。

C：ADS に掲載されるのなら公開する人が増えるのではないか？

[議論]

11 共同利用旅費縮小案について

SAC 委員長：前回観測所から共同利用旅費の縮小案が出ていたが、ユーザーへのアナウンスはどうか？

岩田副所長：航空券代の上限を設定する（繁忙期は考慮する）、TAC にプログラム割付けへの配慮をお願いする、というのが骨子だった。

TAC 委員長：TAC への要望はなるべく早く文書でいただきたい。

岩田副所長：TAC への要望のポイントは、半夜割付けを避けること、(申請された) 最低必要夜数を割り込んだ採択は慎重に、ということだが、(1 プログラムあたりの) 平均的な採択夜数を設定するかどうか議論していただきたい。

C：観測には短くてもできるものとそうでないもの、いろいろある。

岩田副所長：各プログラムの採択夜数をその数字以下にする、という意味ではなく、採択夜数の平均に数値目標を設定するかどうかだ。

C：最低必要夜数を割り込むことを避けるだけで、結構違うのではないか？

SAC 委員長：まずはこの要望を TAC に伝えるだけでよいのではないか？

岩田副所長：ではそのように TAC に依頼する。

SAC 委員長：TAC がどれくらい頑張ったかの分析はできるのか？

岩田副所長：S14B との比較はできる。

SAC 委員長：それによって次々回以降の方針に反映できる。

TAC 委員長：旅費のために夜数を決めるのはおかしい。元々自分が TAC 委員になった際に以前より個々の採択夜数が減っていることを感じたので、こちらから議論を提起したが、TAC としてあまり対応できていない。

C：サービス・プログラムの上限を 4 時間でなく 6 時間にすれば、旅費を使わないで半夜の観測ができると思う。

岩田副所長：半夜の観測はそんなには多くない。

TAC 委員長：1 夜の採択が多い。

岩田副所長：スコアの高い提案の夜数を削らないようにお願いしたい。

TAC 委員長：夜数を削られるのは中程度のランクの提案だ。

(結論) 今回は具体的な(平均採択夜数の)目標ラインは設定せず、TAC に配慮を依頼して様子を見ることとした。サイエンスのパフォーマンスを上げるため、最低必要夜数を割り込んだ採択は慎重にお願いする、そのことで旅費の削減にもつなげたい、という文書を観測所が準備する。

12 東北大での SAC 開催について

SAC 委員長：日程調整の結果、東北大の SAC 開催は 7/8 (水) を予定している。

村山委員：場所は確保済みだ。院生との交流を目的としているので、15 時ぐらいから懇談の場を設ける。TV 会議も可能で、食堂やコンビニも建物内にある。

所長：これまでの例だと終了後に懇親会を行った。

SAC 委員長：6 月と 7 月の SAC を 7/8 に開催することにはどうか？8 月は開催する。
(委員の同意)

(結論) 6 月と 7 月の SAC を合せて 7/8(水)に東北大開催とする。11 時開始で通常の SAC を行い、15 時から 2 時間程度学生との懇談を持ち、その後懇親会。6 月に行う予定だった **Fastsound** の終了審査会は PI の都合が合えば 7/8 に行う。次回の SAC は定例開催日の 5/27(水)。

**** 資料 ****

- 1 国際連携に関する所長私案(SAC 内限り)
- 2 前回議事録改訂版